

平成22年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属幼稚園

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
教育課程・ 学習指導等	「森の幼稚園」教育課程 開発事業	【全国的に模範となる教育 を行うための具体的方策】 ⑤ 自然との触れ合いを通 じて、幼児が豊かな直接 体験や感動体験ができる よう環境を整備するため 、「森の幼稚園」構想の 実現に努める。	「森の幼稚園」の保育 プランづくり	【成果指標】保育プランに ついて協議(研究日・園内 研究日・職員会議) 【判断基準】発達に沿っ た保育プランづくりと評 価	森の幼稚園構想の基本計 画について、職員会議で 協議すると共に、保育 プランの素案を作成し、 保育実施後、評価し検 討した。	B	保育プランについて、 検討、協議、評価と、 充実した取り組みがな された。それをふまえて 、幼児の育ちに副った 、さらなる保育プラン の改善を願う。	B	本事業計画は園のスタ ッフの努力と森の達人 の協力によって、十分 に進展したと思われる 。また、学校関係者 評価においても一定の 評価を得ることができ た。本年度事業で開発 した保育プラン(カリ キュラム)の基礎に よって、来年度以降は 森での生活の充実を 図る教育課程の開発と 保育実践に取り組ん でいきたいと考えて いる。本構想の基盤 整備と教育課程の開 発は順調に進展しつ つあり、豊かな自然 環境を生かした保育 がさらに本格的に展 開できるものと期待 される。
			「森の日」の取り組み	【成果指標】一日中森 で過ごす「森の日」を 設ける 【判断基準】森という 環境が身近な生活の 場となる	森の達人を迎え、森 で過ごす「森の日」 を、年長組は週に1 回、年中組は2週に 1回行い、森の保育 に大きな示唆を得た。	A	「森の幼稚園」構 想の実現の一環とし て取り組んだ「森の 日」を高く評価し たい。	A	
			森の幼稚園の童話 集の編集及び刊行	【成果指標】「もり からもらったものが たり」の作成 【判断基準】「森の 幼稚園」の日常につ いて執筆する	教職員による森の 物語、園便り、クラ ス便りの掲載に、山 小屋への道(FCの 会)を加えて作成 した。(広島大学後 援会研究助成金授 与)	A	「もりからもら ったものがたり」を 作成し、森の幼稚 園の日常をありの まま分かり易く執 筆、編集されたこ とを高く評価し たい。	A	
教育研究等	教育課程開発研究 事業	【大学・学部との連携・協 力の強化に関する具 体的方策】 ① 教育学研究科(附 属幼年教育研究施設 を含む)との密接な 連携の下に、「幼小一 貫カリキュラムの編 成」や「幼児の道徳 的判断力を育てる 支援方法」に関して 先端的な研究及び 研究協力を進める。 【全国的に模範とな る教育を行うための 具体的方策】 ① 大学や医療関係 者との連携を一層 深めながら、IT活 用による統合保育 の進め方やカリ キュラムについて 検討する。② 21 世紀の社会を見 据えつつ、生きる 力を育む教育課 程の編成と指導 方法の開発に取り 組み、その成果 を「幼児教育研究 会」で公開する。 ③ 自然との触れ 合いを通じて、幼 児が豊かな直接 体験や感動体験 ができるよう環 境を整備するた め、「森の幼稚園」 構想の実現に 努める。	自然を生かした教育 課程の開発研究(研 究主題「森で育 つ」)	【成果指標】研究 テーマに関する 研究成果の公表 【判断基準】① 公開研究会にお ける発表、②附 属幼稚園紀要 への投稿・掲載	研究成果は、幼 児教育研究会で 発表し、参加者 から高い評価 を得た(「評価 シート」より)。 また、発表内 容は、広島大 学附属幼稚園 研究紀要第32 巻に収められた。	A	充実した研究 活動が展開さ れているので、 継続してほしい。	A	本事業について は学校関係者 から高い評価 を得ることが できた。本園 では、園独自の 研究のみならず 、大学との共同 研究を活かす ため、自然を 生かした保育 、障害をもつ 幼児の支援 方法等に関し て新しい知見 を得ることが できた。これ らの知見は、 保育実践に すぐさま活用 できるものと 期待している 。来年度以降 も継続して 研究開発を進 めていきたい。
			アフォーダンスの 視点から探る「 森の幼稚園」 カリキュラム -素朴な自然環 境は保育実践 に何をもちた らすのか-	【成果指標】研究 テーマに関する 研究成果の公表 【判断基準】学 部・附属共同 研究紀要等へ の投稿・掲載	研究成果は、 中坪史典ほか、 アフォーダンス の視点から探 る「森の幼稚 園」カリキュ ラム『学部・ 附属学校共 同研究機構 研究紀要』第 39号2010 年に収録。	A	充実した研究 活動が展開さ れているので、 継続してほしい。	A	
			発達に課題のある 幼児の幼稚園 適応に関する 実践的研究- 適応過程と その関連要 因の検討を 中心に-	【成果指標】研究 テーマに関する 研究成果の公表 【判断基準】学 部・附属共同 研究紀要等へ の投稿・掲載	研究成果は、 七木田敦ほか 「発達に課題 のある幼児の 幼稚園適応に 関する実践 的研究」『学 部・附属学 校共同研究 機構研究紀 要』第39号 2010年に 収録。	A	充実した研究 活動が展開さ れているので、 継続してほしい。	A	
社会連携・ 社会貢献活 動等	子育て支援事業	【学校運営の改善に 関する具体的方 策】 ① 園内の保護者 及び地域社会に 、定期的に子 育て支援のた めの相談・講 座(「子育てサ ロン」・「子 育て支援教室 」など)を提供 する。そのため 、保育・子育 てに関する講 座・講演・相 談が行える施 設(多目的室) の設置につ いて引き続き 検討する。 【全国的に模範 となる教育を 行うための具 体的方策】 ③ 前年度の実 践活動の成果 を踏まえなが ら、園内外の 母親を対象に した子育て支 援サービスを 提供し、地域 社会の子育て 支援センター としての役割 を果たす。	誕生会に誕生児 保護者を対象 に毎月「カフェ ・ド・フック (子育てサロン)」を開く	【成果指標】子育 ての不安、悩み が軽減したとい う母親の意見 【判断基準】① 参加呼びかけ に対して90% の参加者 ② アンケート調 査の結果	参加者は毎月 100%程度で あり、30%以 上の父親の参 加もあり肯定 的評価を得て いる。	A	大変よい取 組みである ので、継続し て取り組んで ほしい。	A	子育て支援 事業については 、本年度は、 予想以上の 成果を上げた といえる。た だし、今後の 課題として、 園内外の母 親を対象に 「子育て支 援教室」を開 催する場合 、講師謝金 等事業経費 の捻出が困 難になるこ とが予想さ れる。また、 子育て支援 事業に使う 「多目的室」 の設置も大 きな予算を 伴うため、 実現が難し い。
			園内外の母親 を対象に、心 の問題や障 害を抱える 子ども達 に対する理 解と共生を 推進する活 動として、 講演会を開 く	【成果指標】イン クルージョン について少し 理解できたとい う参加者の 意見 【判断基準】ア ンケート調 査の結果、80 %以上の母 親が肯定的 に評価した 場合	地域の社会福 祉法人六方 学園理事長 による講演 会「子に情を たくす」を 開催し、60 名の参加者 には概ね好 評であった。	A	大変よい取 組みである ので、継続し て取り組んで ほしい。	A	
			教育課程外、 親子体験活 動の取組み ・月と星を 観る会 ・親子ビ デオトープ	【成果指標】親 子の自然体験 【判断基準】① 参加の呼び かけに対 して90% 親子参加 ② アン ケート結 果	大学の施設、 大学の教 官による 指導、助 言を受け、 親子で自 然の面白 さ不思議 さを	B	ぜひとも 必要な 施設であ ると考え られる。 実現に向 けて、引 き続き 努力して ほしい。	B	

注) □太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。

平成 22 年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 附属幼稚園

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
学校経営・安全管理等	学校運営改善事業	【学校運営の改善に関する 具体的方策】 ③ 保護者評価及び学校評 議員による評価が学校運営 にどのように活かされている かを検証する。 ⑥ 図書情報のデータベー ス化と附属学校間の図書情 報のネットワーク化を引き続 き進める。	保護者評価の見直し	【成果指標】園の評価が行いやすくなったという保護者の意見【判断基準】①新たな保護者評価票の作成と評価の実施、②学校評議員等が「保護者評価票」の向上を認めた場合	新たな保護者評価票を作成し、2月に評価を実施し、その結果、保護者から高い評価を得た。また、評議員からも、保護者評価の向上が認められた。	A	日頃の活動、研究会、行事などの目標を明確にし、それに向かっての活動計画を立て、一つ一つ実行していく取り組みはすばらしい。ただ、その評価を気にしすぎて保育を歪めないようにすることが大切である。	A	保護者評価の見直しについては、予想以上の成果が得られた。図書情報については以前と比較して若干の改善が見られた。保護者評価の結果を、保育実践を充実させることに生かすことができるように、質問事項などの見直しをさらに行っていきたい(学校関係者評価としてご指摘があった。例えば、子育て支援の評価を年末アンケートにも入れるなど。)
			学生・院生ボランティアの任用手続の整備	【成果指標】学生・院生ボランティア活動の効果的運用【判断基準】①事務手続きマニュアルの作成並びに実施、②意見聴取等により、7割以上の教職員が以前のシステムより運用面の向上があったと認識した場合	職員会議で鋭意検討したものの、マニュアル作成までには至らなかった。しかし、7割以上の教職員がボランティアの効果的活用が行われたと評価した。	B	さらに継続して取り組んでほしい。	B	
			図書情報の更新	【成果指標】図書コーナーの利便性の向上【判断基準】意見聴取等により、8割以上の教職員が図書利用の利便性が向上したと認識した場合	ほとんどの教職員が改善を認識している。	B	「絵本の部屋」の整備など、保育の中での有効利用に関する取り組みは評価することができるので、さらに継続させてほしい。	B	
その他	教員研修関連推進事業	【大学・学部との連携・協力の強化に関する具体的方策】 ② 体系的な教育実習プログラムを提供するため、新しい実習手引の内容を踏まえ、実習方法の検討を引き続き行う。 ③ 附属幼年教育研究施設と共同して、「幼児保育研修セミナー」及び「保育について語る会」を開催する。 【公立学校との人事交流を生かした教員研修に関する具体的方策】 ① ひがし広島幼児保育研究会の事務局として、教職員の人的ネットワークづくりと研修の促進を図り、地域内の幼児教育の質的向上に努める。	中国地区国立大学附属学校連盟幼稚園部会研究集会の開催	【成果指標】中国5県の附属幼稚園教諭の研修の促進【判断基準】①中国地区6園の教職員の常勤職員100%の参加②アンケート調査・意見聴取等による肯定的評価	本園での開催であったので、非常勤講師も参加・交流でき、それぞれの園の実態・研究について協議することは意義があったと肯定的意見多数であった。	A	大変よい取り組みであるので、継続して取り組んでほしい。	A	おおむねよい評価をいただいている。「幼児保育研修セミナー」・「保育について語る会」及び「ひがし広島幼児保育研究会」の講演会はいずれも参加者から高い評価を得ることができたが、今後は、評価の高い講演者をどう確保するか、またその時期をどこにもっていくかが大きな課題とである。
			「ひがし広島幼児保育研究会」の開催	【成果指標】園内外の教職員の研修の促進【判断基準】①研究会の開催の有無。②アンケート調査・意見聴取等による約6割の参加者の肯定的評価	8月と11月の2回開催した。参加者へアンケート調査を行った結果、肯定的に評価した意見が90%であった。	A	大変よい取り組みであるので、継続して取り組んでほしい。教員研修の場として貴重である。	A	
			「幼児保育研修セミナー」・「保育カンファレンス」の開催	【成果指標】園内外の教員の研修促進【判断基準】①セミナー、会の開催 ②参加者アンケートによる肯定的評価	セミナー・保育カンファレンスともに、参加者による質問や協議が活発に行なわれたが、参加動員数は少ない。セミナー・保育カンファレンスの時期と内容の検討が必要である	B	教員研修の問題として重要である。継続して取り組んでいただきたい。	A	

注) 太枠内は、学校関係者評価委員会が記入する。